

公表

## 事業所における自己評価総括表(児童発達支援)

○事業所名	アストラポルテFC筑西		
○保護者評価実施期間	令和7年1月5日		～ 令和7年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	令和7年1月5日		～ 令和7年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月17日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	広い活動スペースと柔軟な環境調整	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基準以上の広さを確保しており、子どもたちがのびのびと活動できる環境が整っている。</li> <li>・室内でも運動できるスペースを確保し、天候に左右されずに体を動かせるのが強み。</li> <li>・サッカーなどの動きのある遊びに対しても、ボールの飛び方を考慮しながら安全対策を実施している。</li> <li>・活動内容に応じてスペースを柔軟に使い分けることで、子どもたちの自主性や創造力を伸ばす工夫をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全性のさらなる強化 天井に防護ネットを設置し、ボールの飛び跳ねを防ぎ、安全性を向上させる。</li> <li>・衝撃吸収マットを設置し、転倒時の怪我を防ぐ。</li> <li>・多目的スペースの活用 「学習エリア」「運動エリア」「リラックスエリア」など、ゾーニングを明確にし、子どもたちが自分に合った活動を選びやすい環境を作る。</li> </ul>
2	職員の安定した配置とチームワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員が常勤職員であり、スタッフの定着率が高いため、継続した支援が可能。</li> <li>・経験豊富な職員が多く、子どもたちの特性や状態に合わせた臨機応変な対応ができる。</li> <li>・「職員の配置数は適切」との保護者評価もあり、マンツーマンに近い手厚い支援が提供できる環境。</li> <li>・チームワークが良好で、職員間の情報共有がスムーズに行われているため、支援の一貫性が保たれている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員研修の強化 専門的な外部研修(発達支援・運動療法・行動分析)への参加を促し、職員のスキル向上を図る。</li> <li>・「ロールプレイ研修」を導入し、より実践的な対応力を磨く。</li> <li>・職員間の情報共有の強化 「デイリーミーティング」の内容をさらに充実させ、支援の方向性を共有する</li> </ul>
3	子ども目線の環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の目線に合わせた掲示物(時間割・ルール表など)を設置し、子どもたちが理解しやすい環境を作っている。</li> <li>・活動スケジュールや支援方針が明確で、子どもたちが安心して過ごせるよう配慮されている。</li> <li>・子どもが自由に遊びを選択できる環境を整え、自主性を尊重した支援を行っている。</li> <li>・必要に応じて支援内容を柔軟に変更し、子どもに合った方法でサポートできる体制が整っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚的な情報支援の強化 「ピクトグラム」や「写真入りスケジュール表」を導入し、さらに視覚的に分かりやすい環境を作る。</li> <li>・子どもの意見を取り入れる 「何をしたいか?」を話し合う「子ども会議」を定期的で開催し、子ども自身が環境作りに関わる機会を作る。</li> <li>・児童の好きな遊びを取り入れた「選択型プログラム」を強化。</li> </ul>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・施設のバリアフリー対応不足 階段が急で危険、バリアフリー化されていない、コンセントカバーが未設置。	既存の建物の作りがバリアフリー化されていないため、急な改善が難しい。	コンセントカバーの設置や手すりの増設など、できる範囲で安全対策を強化。
2	・地域交流の不足 地域とのつながりが少なく、地域のイベントや学校・福祉施設との連携が不足している。 施設内での活動が中心になりがちで、地域資源を十分に活用できていない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との接点を持つ機会が少ない</li> <li>他施設や地域団体との交流機会を設ける時間的余裕がない。</li> <li>地域イベントへの参加ハードルが高く、積極的に関与する体制が整っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域交流の強化 地域の学校・福祉施設と定期的な連携を図り、交流イベントを企画。</li> <li>近隣の公園や商店街での活動を取り入れ、地域住民との接点を増やす。</li> <li>ボランティアの受け入れ、参加を進め、地域住民が関与しやすい体制をつくる。</li> </ul>
3	相談体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信頼性がない</li> <li>・連絡体制の不足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談する機会(面談等)を増やし、周知していく。</li> <li>・信頼していただくよう、日頃の情報共有(連絡帳等)の強化を行う。</li> </ul>
4	・マニュアルの周知不足 保護者や職員へのマニュアルの浸透が十分でなく、統一した対応ができていないケースがある。 新しい職員やパートスタッフが増えた際の教育が不十分になりがち。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マニュアルの更新・共有体制の問題 マニュアルが一度作られたまま見直されておらず、最新の状況に即していない部分がある。</li> <li>研修時にマニュアルの確認が徹底されていないため、職員間で対応にばらつきが出る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マニュアルの周知徹底 定期的な職員ミーティングでマニュアルの内容を確認し、更新が必要な箇所を反映。</li> <li>新入職員の研修時に、マニュアルを用いた実践的なロールプレイ研修を実施。</li> <li>重要な部分をポスター化し、事務所に掲示することで日常的に確認できる環境を整える。</li> </ul>